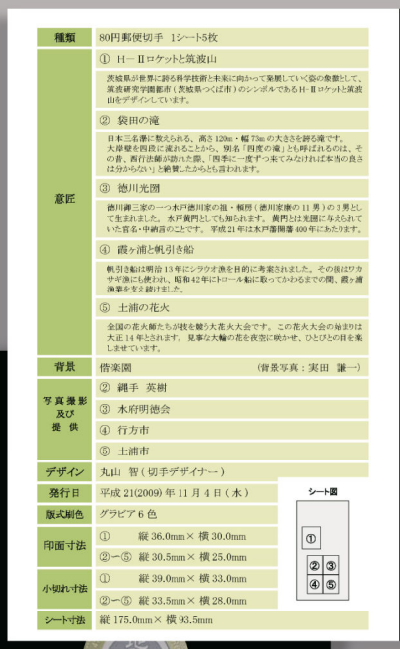
「茨城県」版

＊イメージ



種類	80円郵便切手　1シート5枚
意匠	① H－Ⅱロケットと筑波山
	茨城県が世界に誇る科学技術と未来に向かって発展していく姿の象徴として、筑波研究学園都市（茨城県つくば市）のシンボルであるH－Ⅱロケットと筑波山をデザインしています。
	② 袋田の滝
	日本三名瀑に数えられる、高さ120m・幅73mの大きさを誇る滝です。大岩壁を四段に流れることから、別名「四度の滝」とも呼ばれるのは、その昔、西行法師が訪れた際、「四季に一度ずつ来てみなければ本当の良さは分からない」と絶賛したからとも言われます。
	③ 徳川光圀
	徳川御三家の一つ水戸徳川家の祖・権現（徳川家康の11男）の3男として生まれました。水戸黄門としても知られます。黄門とは光圀になられていた官名・中納言のことです。平成21年は水戸藩開藩400年にあたります。
	④ 霞ヶ浦と帆引き船
	帆引き船は明治13年にシラウオ漁を目的に考案されました。その後はワカサギ漁にも使われ、昭和42年にトロール船に取ってかわるまでの間、霞ヶ浦漁業を支え続けました。
	⑤ 土浦の花火
	全国の花火師たちが技を競う大花火大会です。この花火大会の始まりは大正14年とされます。見事な大輪の花を夜空に咲かせ、ひとびとの目を楽しませています。
背景	偕楽園　（背景写真：実田　謙一）
写真撮影及び提供	② 縄手　英樹
	③ 水府明徳会
	④ 行方市
	⑤ 土浦市
デザイン	丸山　智（切手デザイナー）
発行日	平成21(2009)年11月4日（水）
版式刷色	グラビア6色
印面寸法	①　縦36.0mm×横30.0mm
	②ー⑤　縦30.5mm×横25.0mm
小切れ寸法	①　縦39.0mm×横33.0mm
	②ー⑤　縦33.5mm×横28.0mm
シート寸法	縦175.0mm×横93.5mm

シート図

茨城県

茨城県は、日本列島のほぼ中央、関東地方の北東にあり、面積は全国第24位、可住地面積は全国第4位の広さを持っています。8世紀前半（奈良時代）に編纂された常陸国風土記に「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びと豊かに暮らし、常世の国のようだ」と記されているように、古来から多くの人々が豊かに暮らしてきました。

現在も、農業が盛んで、米や園芸、畜産など多種多品目にわたる生産が行われており、農業産出額はメロン、レンコン、麦、鶏卵などが全国第1位、農産物全体では全国第2位（平成20年）を誇っています。

また、偕楽園や旧水戸藩弘道館、袋田の滝、霞ヶ浦、筑波山など、多くの史跡・名勝に恵まれ、笠間焼や結城紬など伝統工芸品も数多く、観光資源が豊富です。

さらに、国等の研究機関が集積するつくば地区、多くの原子力関連施設が立地し世界最先端の研究施設「大強度陽子加速器（J-PARC）」が稼動した東海地区、電機産業が集積する日立地区、鉄鋼や石油化学などの素材産業が盛んな鹿島地区など、知的資源と産業集積にも恵まれ、これらを活かし、新技術・新産業の創出を図り、科学技術創造立国の枢要な拠点となっていくことが期待されています。

茨城県章
県章の形態は、「常陸国風土記」の「茨城郡」の条に「茨（うばら）が見えるなど本県の自然や歴史に関係の深いばらを基本モチーフに、開き始めたばらのつぼみをダイナミックに象徴化したものです。新しい時代を先導する県にふさわしい“未来指向の斬新なイメージ”をデザインの基調とし、茨城県の「先進性」「創造性」「躍動」「発展」を表現しています。（平成3年11月13日制定）

茨城県の鳥（ヒバリ）
昭和40年の愛鳥週間に、県が野鳥の保護と繁殖を図るため、広く県民から「県民の鳥」を公募し、この結果をもとに茨城県鳥獣審議会に諮って同年11月3日指定されました。
「ヒバリ」は、天高く舞う春の天使、その歌うさまはのどかな中にも希望を湧かせる力強さがあり、茨城県の豊かな自然環境や農村環境に調和し、親しまれています。

茨城県の花（バラ）
県花は、茨城という地名にちなむとともに県章、県旗のいずれもが「バラ」をかたどっている関連において「バラ」とされ、県章及び県旗とともに県民の心の象徴として広く県民に親しまれるようにと昭和41年3月28日に定められました。

（各都道府県共通）
裏面『古戦のイメージ』

5百円バイカラー・クラッド貨幣の概要

額面	5百円
素材	ニッケル黄銅、白銅及び銅
品位	銅75%、亜鉛12.1%、ニッケル12.5%
重量	7.1グラム
直径	26.5ミリメートル
その他の特徴	異形刻めギザ、潜像等